

# 【都市の概要】

## City Outline

### あゆみ

1600年伊達政宗は領内の中枢と交通の要衝であると同時に広大な平野を控えて大きく発展する可能性を備えた仙台に居城を定めました。以来、仙台は全国有数の城下町として栄えてきました。

明治22年に市制が施行され、軍事・司法・運輸・通信等の国家機関や、東北帝国大学などの教育機関の存在により「東北の治府」、「学都」と評されました。

戦後、戦災復興事業や都市計画事業により都市整備が進み、経済復興と共に国家機関が集中し、また、昭和40年代に入ると経済の高度成長による市場の拡大に伴い企業の支店進出が相次ぎ、中枢管理機能が著しく高まりました。

平成元年4月に全国11番目の政令指定都市に移行し、東北の中枢都市として発展を続けています。

### 地勢

本市は、東北地方のほぼ中央に位置し、東経140°52'10"、北緯38°16'05"（市役所本庁舎）にあり、市域の西は奥羽山脈、東は太平洋に囲まれ、面積786.35km<sup>2</sup>、東西50.58km、南北31.20kmの広さを有しています。本市北西部には、蔵王国立公園や県立自然公園である船形連邦があり、千m級の山が連なっていることで、森林が市域面積の約6割を占めています。その山地の東には広い丘陵地が続き、合間を縫うように広瀬川、名取川、七北田川が東流し、太平洋に注いでいます。仙台はそれらの河川により形成された河岸台地や段丘の上に発達した都市です。

### 気候

本市は、比較的高緯度に位置していますが、海洋性気候を有しており寒暖の差が少なく、冬は奥羽山脈を越して吹きつける北西の風が乾ききっているため、積雪が少ないのが特徴です。年平均気温は12.8℃、年間降水量は1,276.7mmで5月から10月までの6ヶ月間で年間降水量の73%を占めています。

### 市域

明治22年4月1日の市制施行時には、市域はわずか17.45km<sup>2</sup>でしたが、昭和3年から昭和63年まで7回にわたって周辺市町村を編入し、現在の市域面積は786.35km<sup>2</sup>となっています。

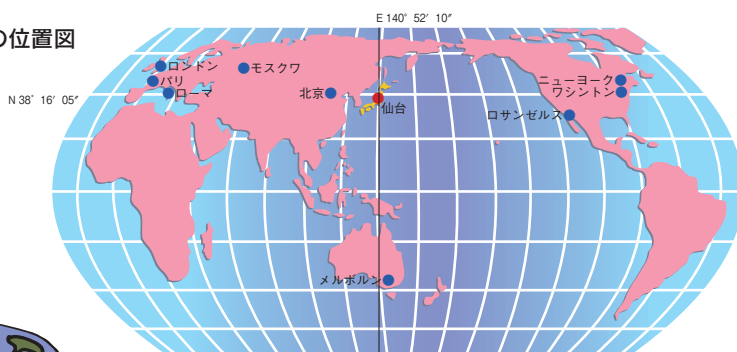
### 人口

本市の人口は、市制施行時8.6万人でしたが、以来周辺市町村を編入しながら、戦時などの一時的な減少を除けば、ほぼ一貫して増加してきました。とりわけ、東北の中枢的な都市として確固たる地位を占めるに至った昭和40年代には、著しい増加を示しました。

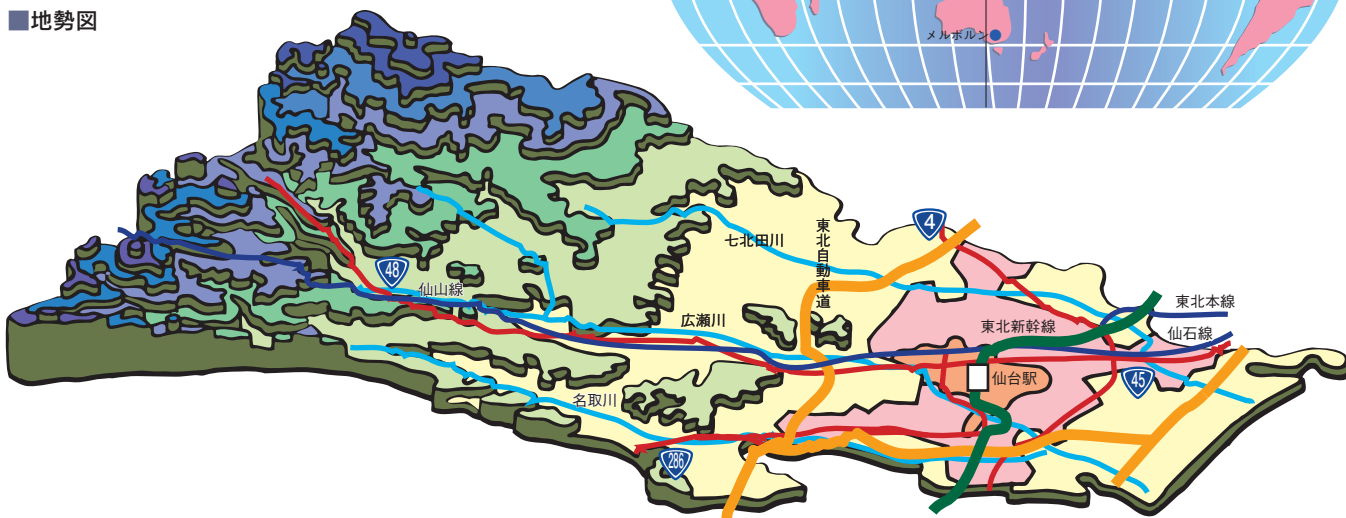
その後伸びは次第に低下しましたが、他の大都市に比べれば相対的に高い水準を維持し、平成11年5月には人口が100万人を越えました。

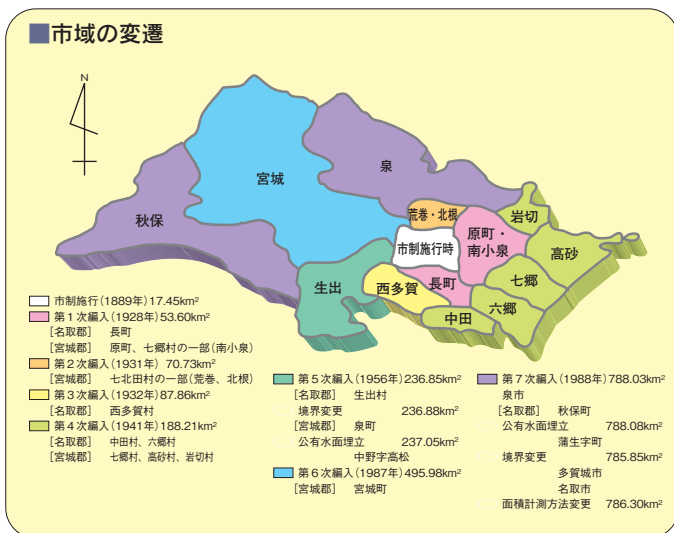
令和5年5月における推計人口は、1,098,221人です。

■仙台の位置図

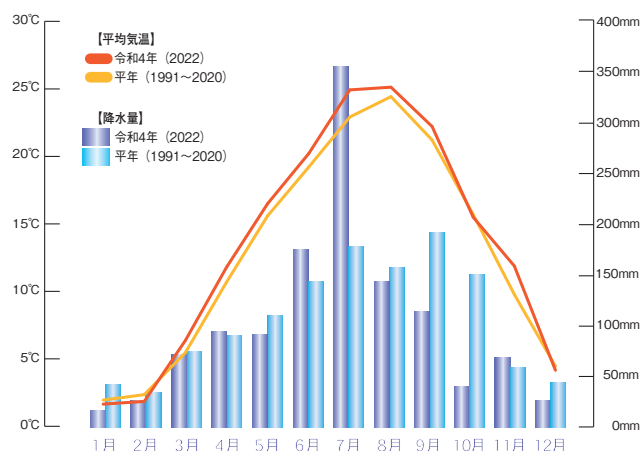


■地勢図





### 月別平均気温と降水量



## 産業

本市の産業は、商業・サービス業を中心とした第3次産業の割合が大部分を占めています。市内企業のうち、支店の占める割合が政令指定都市の中で最も高いことから、支店経済都市といわれています。

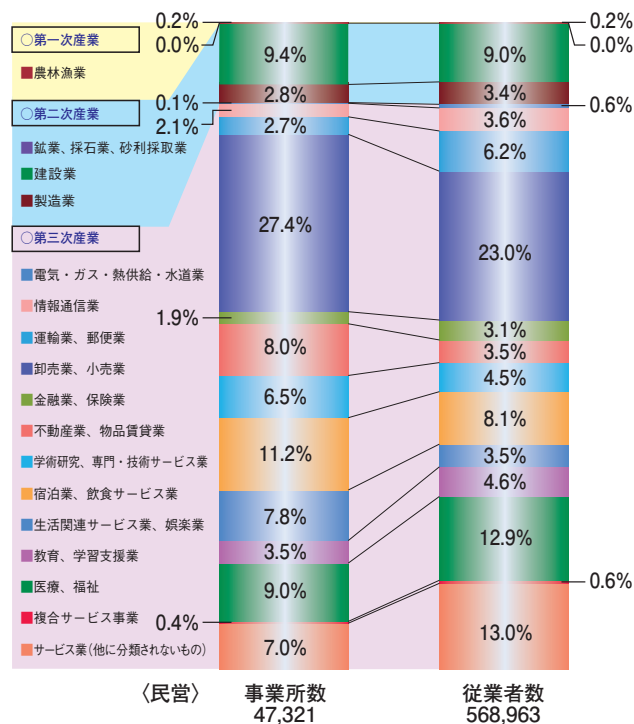
令和3年の経済センサス活動調査によると、市内には47,321の事業所があり、このうち第1次産業が97 (0.2%)、第2次産業が5,800 (12.3%)、第3次産業が41,424 (87.5%)となっています。

また、市内には568,963人の従業者がおり、このうち第1次産業が1,060 (0.2%)、第2次産業が70,972 (12.5%)、第3次産業が496,931 (87.3%)となっています。

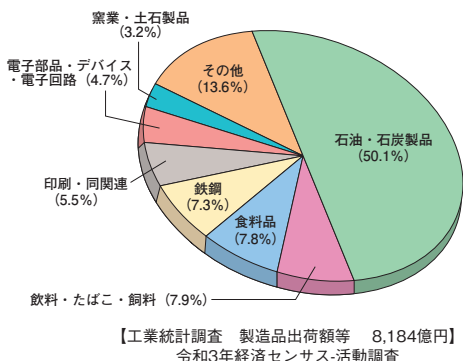
令和3年経済センサス活動調査によると、本市における製造業の製造品出荷額等※は、8,184億円であり、石油製品・石炭製品 (4,102億円)、飲料・たばこ・飼料製造業 (644億円)、食料品製造業 (637億円)の割合が高くなっています。

※製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額

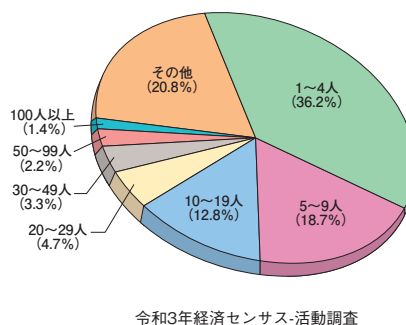
### 産業分類別・事業所数・従業者数とその構成 (令和3年)



### 製造業の業種別製造品出荷額等の構成 (令和3年)



### 事業所別の従業者規模別構成 (令和3年)



## 仙台市基本計画【令和3年3月策定】

仙台市基本計画は、仙台の目指す都市の姿と、その実現に向けた施策の方向性を示したまちづくりの指針であるとともに、先を見通すことが困難なこれからの時代においても、仙台に関わるすべての方々ともまちづくりの歩みをともに進めていくことを目的に策定しています。

### 計画期間

計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間としています。

また、基本計画は行政運営の長期的な指針となるものであるため、目指す都市の姿については、21世紀半ばを見据えるものとしています。

### まちづくりの理念

仙台がこれまで培ってきた都市個性を深化させ、掛け合わせ、相乗効果を生み出すことで「杜の都」を新しいステージに押し上げる挑戦をはじめるといふ想いのもと、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」をまちづくりの理念として掲げています。

持続可能な未来へ、「杜の都」と呼ばれる仙台のまちを、世界に誇れる場所として未来に引き継ぐため、「杜の都」と親和性のあるGreenという言葉に、大切にしていきたい様々な意味を込め、常に高みを目指す姿勢の象徴として、最上級を表す「est」を付した“The Greenest City”というまちづくりの方向性を定めています。

### 目指す都市の姿

本市がこれまで培ってきた強みでもある「環境」「共生」「学び」「活力」の4つの都市個性を見つめ直し、それぞれを深化させた「杜の恵みと共に暮らすまちへ」「多様性が社会を動かす共生のまちへ」「学びと実践の機会があふれるまちへ」「創造性と可能性が開くまちへ」の4つを目指す都市の姿としています。

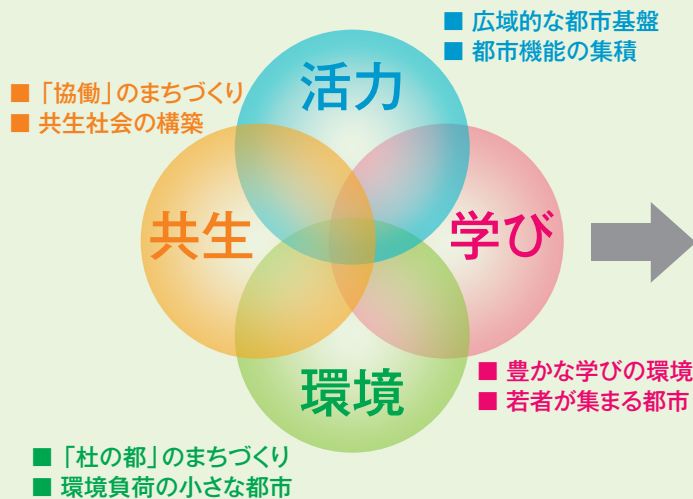
## ■まちづくりの理念と目指す都市の姿の概念図

### 【理念】

# 挑戦を続ける、新たな杜の都へ

～“The Greenest City” SENDAI～

### 【目指す都市の姿を実現するための強み】



### 【目指す都市の姿】

<p>Green ⇒ 自然 杜の恵みと共に暮らすまちへ</p> <p>◆豊かな自然・市民の暮らし・都市機能が調和した、風格を備え住みよさを実感できるまち ◆災害対応力を備え、国内外の防災力の向上に貢献できるまち</p>	<p>Green ⇒ 成長 学びと実践の機会があふれるまちへ</p> <p>◆子どもたちが健やかに育ち、学ぶ喜びを実感できるまち ◆すべての人に成長の機会があふれ、東北や世界の未来にも貢献する人材を次々と輩出するまち</p>
<p>Green ⇒ 心地よさ 多様性が社会を動かす共生のまちへ</p> <p>◆心と命を守る支えあいのもと、多様性が尊重され、誰もが安心して暮らすことができるまち ◆一人ひとりが持つ多様な価値観・経験を社会全体の力に変えるまち</p>	<p>Green ⇒ 進め！ 創造性と可能性が開くまちへ</p> <p>◆新たな価値を生む創造性が開かれ、地域経済の活性化・社会課題解決・東北の活力につながるまち ◆グローバルな経済活動や多彩な交流が生まれるまち</p>

仙台が誇る強みを磨きあげ、多くの方から選ばれる都市へ

都市の姿の実現に向けては、危機に対しても安全・安心な生活基盤を守り抜くため、幅広い分野にデジタル技術を積極的に取り入れるなど、社会の変化への対応力をさらに高めていくこととしています。

また、緑豊かな自然と都市機能が調和する仙台の優位性に磨きをかけ、内外に発信することで、多くの人を惹きつけ、選ばれる都市となることを目指しています。

### チャレンジプロジェクト

本市のみならず、住民や地縁団体を中心に多様な力を合わせながら、仙台の特性を最大限に活かして重点的に取り組む8つのチャレンジプロジェクトを掲げています。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| ① 杜と水の都プロジェクト  | ⑤ 笑顔咲く子どもプロジェクト  |
| ② 防災環境都市プロジェクト | ⑥ ライフデザインプロジェクト  |
| ③ 心の伴走プロジェクト   | ⑦ TOHOKU未来プロジェクト |
| ④ 地域協働プロジェクト   | ⑧ 都心創生プロジェクト     |

### 地域づくりの方向性／区ごとの地域づくりの方向性

複雑化・多様化する地域の実情に応じた取り組みを進め、住みよい地域の実現を目指すため、4つの「地域づくりの方向性」を示すとともに、地域のより詳細な特性を踏まえた「区ごとの地域づくりの方向性」も定めています。

### 未来をつくる市政運営

まちづくりの理念の実現に向けた本市の基本姿勢や都市構造形成の方針、取り組み施策を示しています。

### 計画の推進

基本計画の推進に向けた取り組みや進行管理の方針を示しています。